

GlobalPlace 香港紀行

国際部 山本 倫寛

2024年11月30日、5年振りに香港に降り立った。

今回の香港訪問目的は主として、私が理事を務めている NPO 法人 日本香港協会の関係で「香港フォーラム 2024」に参加することであった。「香港フォーラム」は香港貿易発展局 (HKTDC) が主催する、38 の国と地域の 49 の香港ビジネス協会のユニークなネットワークである香港ビジネス協会連盟の毎年恒例の旗艦イベントで、香港に関係する世界中の経済人 400 名程度が香港に一堂に会する年一回の催しものである。

前回の香港訪問は 2019 年 11 月で、当時、私が拝命していた (一社) 東京都中小企業診断士協会の理事・国際部長として企画した「中国大湾区海外事業調査団」の事務局長の立場で 19 名のメンバーを引率してのものであった。皆さまもご記憶にある通り、香港の民主化運動がピークに達した時であり、反政府デモで香港の荒廃した現実を目の当たりにし、10 年間香港に駐在し、香港を第二の故郷としている自分として、強烈な憤りと悲しさを覚えたことがマザマザと蘇る。その後、「香港国家安全維持法」の施行、一国二制度の実質的崩壊など、「レッセフェール (自由放任主義)」で繁栄していた香港の実状はどうか、非常に危惧を抱いて、イミグレーション、税関通過、香港空港から「エアポート・エクスプレス」という列車に乗り込みドキドキしながら市街に移動した。

端的な印象としては、「あれ？ 香港は全然変わってないじゃん！！」という感じであった。イミグレーションは海外からの訪問客で長蛇の列 (日本人は少なめ)、税関はノーチェック通過、「エアポート・エクスプレス」は満席状態、市街を歩いている時の印象も相変わらず皆さん「セカセカ」と香港特有の活気は維持されていた。

さて、ここで、歴代中国首脳 of 香港に対する見方・扱いを記しておく。

- ・毛沢東：長期打算、充分利用 (金を産む鶏にて利用価値がある)
- ・鄧小平：階級闘争から経済成長へ→一国二制度 (五十年不変)
- ・江沢民、胡錦濤：井水不犯河水、河水不犯井水 (井戸の水は河の水を犯さず、川の水も井戸の水を犯さない→互いに干渉しない)
- ・習近平：愛国者による統治、香港国家安全維持法の施行、一国二制度の実質的崩壊

以下「香港フォーラム」参加およびその後、自分自身で企画した「ぶらり香港旅」について、徒然なるままにお伝えすることにする。

11 月 30 日：日本香港協会が主催する広東語教室生徒の皆さまとの交流会にサテライトスタジオから参加。

12 月 1 日：ホテルの部屋で侘しく仕事ながら、夕食は大好きな弁当を買って部屋で堪能。

12 月 2 日：日本香港協会連合会の皆さまとの交流会に参加。沖縄、新潟などからの参加

者と夕食を取りながら楽しく・有意義な時を過ごした。

12月3日：「香港フォーラム」。メイン・セッション「国際競争力の基盤」、テーマ別セッション「香港の最新開発 - 北部都会区」、夜はウェルカムディナー（ビクトリア湾における船上パーティー）に参加。



12月4日：「香港フォーラム」地域分科会およびランチョンミーティングに参加。



1. 「香港フォーラム」における特別ツアーで印象に残ったもの：

1) 一般の人が入ることのできない施設を含めた香港空港視察。

①空港の設備の充実：

a. 第三滑走路の完成



b. プライベートジェットによる乗り継ぎ VIP ラウンジの創設



c. 物流拠点の充実



②香港は一時期、海上輸送貨物（コンテナ）取り扱い量として世界ナンバーワンになったことがあるが、現在は、上海など中国大陸の港にも負け、世界9番目の地位に甘んじている。一方で空輸貨物扱い量としては世界1番目となっており、空輸輸送貨物の取り扱いに重点を移している。

また、空港拡充においてはエアポートシティの構築というコンセプトをベースに増設建設工事を行っているという印象を強く受けた。

2) 路面電車ツアー：



街中の喧騒・活気・高層ビル群は相変わらず強烈であった。

2. ぶらり香港旅：

①全般的に感じたのは、ホテルや街中で欧米人をあまり見かけなくなり、一方で中国大陸の人々が目についたという点である。私の場合、香港に10年住んでいたこともあり、生粋の香港人と中国大陸人は何となく雰囲気分かる。特にホテルでは中国大陸の「〇〇村・〇〇委員会ご一行様」というような団体が目立ち、ホテルの会場での会議および香港視察を主として陣取っている感じであった。

②民主化運動の激化、コロナ禍の影響で激減した香港訪問客を取り戻すため、尽力していることを目の当たりにした。



西九龍文化開發区



西九龍文化開發区内の「香港故宮文化博物館」

③兎に角、物価が上がったことを実感した。

a.5年前に約500円で買った弁当が約1,500円。



大好きな「叉焼・臘腸・焼鴨飯」(チャーシュー・ラブチョン<腸詰>・シューゴーフアン)

b.香港在住の日本人会計士さんとお話しをする機会があったが、その方は現地にご自身の事務所を構えられ、ご家族は大阪に暮らされ、単身赴任状態。そして、ご家族に会うために何と、1週間に1回帰国をされている由。家族を呼ばない主たる理由は教育費と住居家賃。お子さんが二人にて、もし香港の日本人学校に入れると月に一人約20万円、インターナショナルスクールの場合、月に一人40万円。住居家賃は数十万円。一方で飛行機代についてはLCCを使えば往復で5~6万円程度。驚きとともに納得した次第。

④食事はやはり本当に美味しかった。朝飲茶、昼飲茶、海鮮料理、弁当と堪能した。





今後も日本と香港の橋渡し役として尽力したい。

「香港よ、不死鳥（フェニックス）であれ！！」

以上